

令和8年度（4月入学）

大 学 院 薬 学 教 育 部
(博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻)
進学者選考要項

熊本大学



大学院薬学教育部
Graduate School of Pharmaceutical Sciences
(Doctor's Degree Program)

熊本大学大学院薬学教育部のアドミッションポリシー

本教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指している。本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野および環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標とする。一方、本教育部「医療薬学専攻」では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標とする。

上記の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では次のような学生を求める。

- ・深い人間愛と国際性を涵養できる学生
- ・科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
- ・多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
- ・自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
- ・問題提起能力および問題解決能力に優れる学生
- ・創薬科学・生命科学やその基礎となる科学に強い関心をもち、医薬品の研究者・開発者、生命科学研究者あるいは教育者など、創薬科学や生命科学を通して社会に貢献しようという意欲を有する学生

◆入学者選抜の基本方針

入学者選抜においては、以下のような評価方法を用いている。

各試験における評価方法等の詳細については、募集要項に明記している。

- ・専門知識を評価するための口述試験
- ・英語能力を評価するための筆記試験
- ・面接

さらに、本教育部は“地域社会に開かれた大学院”として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施している。

目 次

1. コース及び募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 選抜方法	1
4. 出願期間	1
5. 提出書類等	2
6. 合格者発表	2
7. 進学手続等	2
8. 奨学金	2
9. 授業料免除申請	3
10. 障がい等を有する入学志願者との事前相談	3
11. 注意事項	3
個人情報の取り扱い	4
指導教員および研究内容一覧	5
大学院薬学教育部（博士後期課程）入学試験実施状況	6

添付書類

- ① 進学志願票
- ② 写真票・受験票・住所票

1. コース及び募集人員

○創薬・生命薬科学専攻

コース	コースの概要、理念等	コード	募集人員
ドラッグデリバリーコース	医薬品の体内動態評価、製剤化および薬物送達を行う医療系創薬研究者の養成を目指す。	01	一般入試、 外国人留学生入試及び 社会人入試 と合わせて 10名
バイオファーマコース	医薬品の探索を行う生物系創薬研究者の養成を目指す。	02	
メディシナルケミストリーコース	医薬品シーズを天然資源等から発見し、医薬品の設計・合成を行なう化学系創薬研究者の養成を目指す。	03	
ライフサイエンスコース	病態遺伝学、発生学、循環代謝学などの生命科学を専門基盤とし、次世代創薬を担う生命科学研究者の養成を目指す。	04	

(注) 出願に当たっては、研究指導を希望する教員（5ページ記載）に必ずお問い合わせください。

2. 出願資格

熊本大学の大学院修士課程又は博士前期課程を令和8年3月修了見込の者。

3. 選抜方法

(1)進学者の選抜は、口述試験、面接の結果及び提出された書類を総合して判定します。

(2)学力検査等

試験日時及び場所

試験日	時間	検査科目	対象者	試験場
令和8年2月16日（月）	11:30～	口述試験（論文発表）	薬学教育部博士前期課程在籍者以外の者	本学薬学部
	13:00～	面接	全員	

※薬学教育部博士前期課程在籍者の口述試験（論文発表）は、2月12日（木）の論文発表をもってこれに代えます。

※口述試験（論文発表）、面接の詳細な説明及び時間等の案内は、受験票送付時に同封します。

〔受験上の注意〕

- 受験票は必ず携帯し、受験時は机上に置いてください。
- 机上には、受験票以外置かないでください。
- やむを得ない理由で遅刻した場合、試験開始時刻後30分以内であれば受験を認めます。
- 面接は、集合時刻に遅刻した場合、受験できないことがあります。
- 試験時間終了まで退室を認めません。
- 不正行為（※）をした者の解答は無効とし、以後の受験を認めません。
- 面接は、一部英語で実施します。

※不正行為について

- 試験時間中に、次のものを使用してはいけません。

・携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等。）、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類

これらの補助具や電子機器類をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていたりすると不正行為となることがあります。

なお、イヤホンは耳に装着していれば使用しているものとします（試験時間中、病気・負傷や障がい等により補聴器等を使用したい場合は、受験上の配慮の申請が必要です。）。

- 携帯電話等の電子機器類は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し、電源を切っておいてください。
試験時間中に、これらを身に付けていたり、手に持っていると不正行為となることがあります。
- 試験場において他の受験生の迷惑となる行為をした場合や、試験監督者等の指示に従わない場合には、不正行為となることがあります。
- その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為は、不正行為となることがあります。

4. 出願期間

令和8年1月5日（月）から1月13日（火）17時（必着）

これより後に到着したものは、1月11日（日）までの消印（日本国内）のあるものに限り受け付けます。

※郵便事情を考慮して早めに発送してください。

出願は郵送又は持参とし、封筒の表面に「熊本大学大学院薬学教育部博士後期課程進学願書在中」と朱書きしてください。郵送の場合は「簡易書留速達」で発送願います。

[出願書類提出先]

〒862-0973 熊本県中央区大江本町5番1号 熊本大学生命科学系事務部医薬保健学系事務課
薬学系事務室教務担当

5. 提出書類等

志願者は、次の提出書類等を取りそろえ、提出してください。

提出書類等	該当者	摘要
進学志願票	全員	所定用紙
写真票・受験票・住所票	〃	所定用紙
写真（2枚）	〃	写真は、縦4cm×横3cm、上半身脱帽正面向き、出願前3か月以内に撮影したものを写真票及び受験票に貼ってください。
修了（見込）証明書 オリジナルを提出（コピー不可）	〃	出身大学長（研究科長等）が作成したもの。 ただし、本教育部博士前期課程修了見込の者は不要です。
成績証明書（学部・修士） オリジナルを提出（コピー不可）	〃	出身大学長等が作成し、巻封したもの。 ただし、本教育部博士前期課程修了見込の者は不要です。
修士論文	〃	1部：修士論文が無い場合は、これに代わるもの。 ただし、本教育部博士前期課程修了見込の者は不要です。
修士論文の要旨	〃	1部：日本語（800字以内）又は英語（500語以内）。 ただし、本教育部博士前期課程修了見込の者は不要です。
受験票送付用封筒	〃	長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、410円分の切手（速達料を含む）を貼ったもの。

- (注) 1. 有職者は、入学の際、所属長の承諾書が必要となります。
2. 改姓等により証明書の氏名と現在の氏名が異なる場合は、戸籍抄本（コピー不可）を添付してください。
3. 入学後、提出書類及び記載事項に虚偽の記載が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。

6. 合格者発表

令和8年3月10日（火）

合格者には合格通知書を郵送します。また、参考までに熊本大学のウェブサイト (<https://www.kumamoto-u.ac.jp>) に合格者の受験番号を掲載します。（11時頃予定。当日の通信環境の状況等により遅れる場合があります。）

合格通知書の氏名については、コンピュータに登録する際に慣用字体を用いますので、志願者の表記と異なる場合があります。また、対応できない場合は、カタカナで表記しますのでご了承ください。

なお、電話等による合否の照会には一切応じません。

7. 進学手続等

（1）進学手続

進学手続の期間及び方法等、手続の詳細については、合格通知書送付の際に同封してお知らせします。

・進学手続はインターネット入学手続システムを利用して行います。

なお、進学手続期間中に進学手続をしなかった者は、進学を辞退したものとして取り扱います。

（2）授業料

年額535,800円（前期分 267,900円 後期分 267,900円）（予定額）

※進学時及び在学時に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

（3）災害救助法適用地域で被災した世帯の免除制度について

災害救助法が適用される災害で、学資負担者が災害救助法適用地域に居住し、被災したことにより、授業料の納付が困難な世帯の者を対象として、本人の申請に基づき選考のうえ許可された場合、授業料の全額又は半額の納付が免除される制度があります。

※災害発生後1年以内に納付する入学料及び授業料を対象とします。

問合せ先：熊本大学学生支援部学生生活課経済支援担当 電話 096-342-2126

8. 奨学金

日本学生支援機構奨学生の申込みを行い、奨学生に採用された場合、第一種奨学生（月額80,000円、122,000円から選択）、又は第二種奨学生（月額50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択）の貸与を受けることができます。その他、地方公共団体及び民間団体の奨学生制度もあります。

9. 授業料免除申請

授業料免除申請資格に該当する者を対象として、本人の申請に基づき選考のうえ許可された場合、授業料の全額又は半額の納付が免除される制度があります。

授業料免除は、申請者のうち学力基準と家計基準の両方を満たした者について、本学の予算の範囲内で、家計困窮度の高い者から順に選考を行います。

授業料免除の学力基準は、学業成績等が本人の属する教育部が定める基準以上の者となります。

このため、学力基準を満たしていない場合は、家計困窮度が高い状況でも授業料免除は許可されません。

また、入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の被害を受けたことで授業料の納付が困難な世帯の者を対象として、本人の申請に基づき選考のうえ許可された場合、授業料の全額又は半額の納付が免除される制度があります。

この他にも、新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変したことで授業料の納付が困難な世帯の者を対象として、本人の申請に基づき選考のうえ許可された場合、授業料の全額又は半額の納付が免除される制度があります。

10. 障がい等を有する入学志願者との事前相談

障がい等を有する入学志願者で、本学において受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、令和8年1月9日（金）までに以下により相談してください。

相談の内容によっては対応に時間を要することがあり、本学の試験までに対応できず受験上の配慮が講じられないこともありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

<相談の方法>

① 事前相談票及び医師の診断書を薬学系事務室教務担当に郵送により提出してください。

なお、必要な場合は本学において、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面接を行うことがあります。

② 事前相談票は、以下の本学ウェブサイト掲載の様式を利用してください。

③ 配慮の内容については、以下の本学ウェブサイト掲載の「これまで実施した受験上の配慮の例」を参考にしてください。

[ウェブサイト] <https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/daigakuinnyushi>

11. 注意事項

(1) 出願書類を受理した後は、記載事項の変更及び出願書類の返還はできません。

(2) 台風等の自然災害の影響により試験日時等を変更する場合は、本学ウェブサイト

(<http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/phagrad/>) に掲載しお知らせしますので、最新情報をご確認ください。

〔出願書類送付および問合せ先〕

〒862-0973 熊本中央区大江本町5番1号
熊本大学生命科学系事務部医薬保健学系事務課
薬学系事務室教務担当

電話 096-371-4635

FAX 096-371-4639

e-mail:sky-kyomu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

ウェブサイト:<http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/phagrad/>

個人情報の取り扱い

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 合格者の氏名等を入学手続に係る業務で利用します。
- (2) 入学手続者の氏名等を入学後の学籍管理など修学に係る業務で利用します。
- (3) 入学手続者及び学資負担者の住所・氏名等を授業料徴収など納入金管理に係る業務で利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、入学料免除・授業料免除及び奨学生選考など修学支援に係る業務で利用します。
- (5) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、入学者選抜等に関する調査・研究等に係る業務に利用します。

※ 本学が取得した個人情報は、法律に基づく場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

熊本大学大学院薬学教育部 指導教員および研究内容一覧

R7.12.1現在

指導教員	研究内容
教授 荒木 喜美	◎マウス初期胚・胚性幹細胞を用いた遺伝子工学手法の研究と開発 ◎遺伝子操作マウスを用いたゲノム機能の解析
教授 石塚 洋一	◎小児・新生児領域の医薬品適正使用に関する研究 ◎医薬品有害事象(副作用)のメカニズム解析とその予防・治療法の創成
教授 入江 徹美	◎医薬品包装技術を駆使した医療の質向上に関する研究
教授 大槻 純男	◎定量プロテオミクスを基盤としたがん診断・個別化治療に関する研究 ◎脳門閂機能と中枢疾患、閂門ドラッグデリバリーに関する研究
教授 香月 博志	◎難治性中枢神経変性疾患における細胞死の機序解析と神経保護薬の探索
教授 小谷 俊介	◎有機分子触媒による分子変換法の開発とこれを活用した生物活性物質の効率的合成研究 ◎新規不斉触媒の開発と高立体選択性の有機合成反応の開発
教授 猿渡 淳二	◎生物統計・情報科学を駆使した病態並びに治療反応性の予測 ◎精神・神経疾患治療薬の個別化投与と設計システムの構築
教授 塩田 倫史	◎DNA・RNA高次構造を標的にした神経疾患の病態解明と創薬研究 ◎DNA・RNA高次構造の生物学的意義の解明
教授 城野 博史	◎難治性疾患(悪性腫瘍・慢性炎症性疾患・遺伝性疾患)の病態解明と新規治療戦略の構築 ◎臨床薬物動態解析を基盤とした個別化投与設計・医薬品適正使用
教授 杉本 幸彦	◎プロスタグランジンをはじめとする生理活性脂質の機能に関する創薬研究 ◎慢性アレルギー治療を目指したマスト細胞・好塩基球制御に関する研究
教授 鄭 誠虎	◎データサイエンスの手法、特に機械学習を用いた創薬研究 ◎分子動力学シミュレーションを活用した創薬研究
教授 寺沢 宏明	◎炎症性疾患・認知症・フェロモンの機能メカニズムの解明と創薬展開 ◎構造生物学とイメージングに基づく新規手法の開発
教授 中村 輝	◎モデル生物(ショウジョウバエ)を用いた生殖細胞形成機構の研究 ◎mRNAの細胞内局在と翻訳の時空間的制御機構の解析
教授 藤田 美歌子	◎難治性疾患治療を目指した創薬およびケミカルバイオロジー的研究 ◎HIVの分子ウイルス学的研究
教授 丸山 徹	◎薬物動態に関与する機能性タンパク質の翻訳後修飾に関する医療薬学的研究
教授 三隅 将吾	◎HIV-SARS-CoV-2治療薬開発に関する基礎研究 ◎粘膜免疫・ワクチンに関する基礎研究
教授 南 敬	◎血管病に至る分子メカニズムの解明と創薬研究 ◎エピゲノム制御研究に基づく血管活性化機構解明
教授 本山 敬一	◎シクロデキストリンを基盤分子とするDDS製剤の構築 ◎医薬品の製造、投与デバイスおよび包装技術に関する研究
教授 渡邊 博志	◎腎関連疾患の診断マーカー探索と臨床応用に関する研究 ◎腎関連疾患の病態生理解明及び治療戦略の開発研究
准教授 安藤 真	◎環境調和性および利便性の高い化学反応の開発 ◎含窒素複素環を基盤構造とした配位子の開発と金属触媒への応用
准教授 池水 信二	◎免疫系細胞表面受容体及び基質蛋白質の構造生物学的研究 ◎免疫系シグナル伝達蛋白質の構造生物学的研究
准教授 伊藤 慎悟	◎生体閂門輸送機能を基盤とした病態メカニズムの解明と創薬・ドラッグデリバリー・システム開発への展開
准教授 岩崎 竜之	◎医療現場ニーズに即した医薬品包装・表示設計の実践に関する研究
准教授 尾田 一貴	◎個別化治療を企図した薬物の体内動態の解明と臨床応用 ◎Therapeutic drug monitoringを基盤とした臨床研究
准教授 鬼木 健太郎	◎代謝疾患のリスク予測と個別化予防法開発に関する臨床研究
准教授 加塩 麻紀子	◎体温に着目した生理機能調節機構の解明と創薬応用
准教授 岸本 直樹	◎HIVの増殖を制御する宿主性因子の探索 ◎ウイルス感染に伴って再構築される細胞代謝に関する研究
准教授 倉内 祐樹	◎リアルタイムモニタリング技術を駆使した精神・神経疾患の病態解明 ◎社会環境の多様性を再現した精神疾患動物モデル系の開発
准教授 小橋川 敬博	◎低分子抗体を利用した次世代治療手段の開発研究 ◎抗がん剤創製へ向けた創薬関連タンパク質の構造生物学的研究 ◎計算機を活用した創薬研究
准教授 近藤 悠希	◎医療ビッグデータを利用した医薬品有害事象・薬物間相互作用に関する研究 ◎腎機能障害患者における医薬品適正使用に関する医療薬学研究
准教授 首藤 剛	◎慢性腎疾患・肺疾患・アミロイド疾患に対する疾患・創薬研究 ◎Cエレガンス健康寿命解析技術の基礎・社会実装化研究
准教授 杉村 康司	◎人工栽培装置における新技術の開発と薬用植物の低成本・高収量・高品質化栽培研究 ◎熊本県産在来植物の新たな機能性・有用性の解明と水耕栽培施設を活用した実用栽培化研究
准教授 中村 照也	◎ゲノム安定性、細胞シグナル伝達、創薬に関わる蛋白質の構造生物学的研究
准教授 野田 大地	◎遺伝子改変マウスを用いた受精・発生関連遺伝子の機能解析と創薬展開 ◎ヒトや家畜のサンプルを用いた不妊症リスク因子の探索と創薬展開
准教授 東 大志	◎シクロデキストリンを基盤分子とした超分子薬学の創生
准教授 人羅 勇気	◎微生物および海洋生物由来の新規天然物の探索と機能性の評価 ◎天然物エキスライプラリの構築と生物活性物質の探索
准教授 矢吹 悅	◎液-液相分離による神経変性機構の解明と創薬研究
講師 荒江 祥永	◎有機金属化学種を用いた精密有機合成
講師 土屋 創健	◎microRNA包括トランスクリプトーム解析を用いた生理機能・がん病態メカニズム解明と創薬研究 ◎ゼブラフィッシュを活用した発生・創薬研究
講師 人羅 莉津子	◎適切な行動選択の神経機構とその破綻による精神疾患発症メカニズムの解明
講師 吉永 壮佐	◎炎症・がん・認知症・疼痛・匂い・フェロモンに関する核磁気共鳴イメージング研究と創薬展開

薬学教育部(博士後期課程)入学試験実施状況

年度	専攻名	選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
令和7年度	創薬・生命薬科学専攻	一般	1期募集	10名	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		若干名	0	0	0
		一般	2期募集	10名	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		2	2	2	2
		進学者	10月入学	10名	6	6	6
		一般		若干名	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		1	1	1	1
				合計	9	9	9

年度	専攻名	選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
令和6年度	創薬・生命薬科学専攻	一般	1期募集	10名	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		若干名	0	0	0
		一般	2期募集	10名	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		0	0	0	0
		進学者	10月入学	10名	12	12	12
		一般		若干名	0	0	0
		外国人		2	2	2	2
		社会人		0	0	0	0
				合計	14	14	14

年度	専攻名	選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
令和5年度	創薬・生命薬科学専攻	一般	1期募集	10名	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		若干名	0	0	0
		一般	2期募集	10名	0	0	0
		外国人		1	1	1	1
		社会人		0	0	0	0
		進学者	10月入学	10名	16	16	16
		進学者(追)		1	1	1	1
		一般	若干名	0	0	0	0
		外国人		0	0	0	0
		社会人		0	0	0	0
				合計	18	18	18